

刊行にあたって

茨城大学附属図書館では一九九〇年度以来、本学が所蔵する町方文書「水戸下市御用留」を附属図書館郷土史料双書として毎年一冊の割合で刊行してきた。

昨年度に八冊目を刊行する予定であったが、あとがきで触れている事情によりこの刊行を一年間見合わせており、本年度に刊行が実現した次第である。

今回の八冊目の内容は問屋御用留の記録（延宝八年五月〜享和三年閏正月）である。主に街道筋の関係分であり、多くの研究者から注目されてきた史料である。当時の水戸街道における宿場の状況が把握でき、貴重な学術資料として高く評価されている。

本史料集は残る山方役所の御用留をもって完結することになったが、これも研究成果の暁には刊行したい所存である。

ところでこの史料集がここまで大きな実績を成し遂げたのも最初に「水戸下市御用留」の刊行に尽力された故河内八郎教授の奮闘によるところであり、深く敬意を表したい。さらに、この研究を継承され地道であるが確実に成果を挙げられている、人文学部の長谷川伸三教授、木戸之都子助手ならびに刊行に携わった歴史学教室の大学院生に感謝を申し上げる。

最後に地域に根ざした大学が社会から要請されているこの時期に、学長、事務局長のご理解によって、本学が所蔵する郷土史料の電子化を行うこととなった。当然この御用留も含まれている。現在、電子化の作業中であり、近々インターネットにより古文書の目録及び翻刻された史料集を電子閲覧できることになる。本学のこの事業も学内外の学術発展に大いに寄与できるものと期待している。

平成十一年一月吉日

茨城大学図書館長 平山昌甫